

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 3月 3日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0171400765		
法人名	医療法人富田病院		
事業所名	高齢者グループホームあねもね		
所在地	〒041-0841 北海道函館市日吉町4丁目7番83号 (電話) 0138-32-3223		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年8月26日	評価確定日	平成21年3月3日

【情報提供票より】 (平成20年5月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 16人, 非常勤 0人, 常勤換算 16人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	20,600~26,600 円
敷 金	有 ( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,500 円		

### (4) 利用者の概要 ( 5月1日現在 )

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	5 名	要介護2	6 名
要介護3	3 名	要介護4	2 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86.4 歳	最低 78 歳	最高 95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人富田病院 吉田歯科口腔外科ゆのかわクリニック
---------	----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は郊外に立地し、自然豊かな環境の中にあり、老人保険施設・ケアハウスが隣接している。全職員が研鑽を重ね、利用者に優しくきめ細やかなケアを実践しており、利用者一人ひとりが生きがいを感じられるよう努力しながら、日々理念を追求している。全職員の今後一層の向上が期待できる事業所である。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4)
	課題について、常に改善に向けて前向きに取り組み、改善状況は事業所全体で共有し、年度末に総合的に評価の結果を検討している。 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
重点項目②	自己評価の取り組みについては、全職員で検討し作成しており、検討の過程を全職員で共有し、現状を再確認する機会にしている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議は、2ヶ月に1度開催しており、評価結果を開示するとともに、改善点や疑問点等について、意見・要望を進んで聴取するなどの取り組みをしている。会議を利用して、介護保険等の説明会も行っている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
重点項目④	玄関ホールに意見箱を設置しているとともに、相談窓口を大きく明示しており、積極的に家族の意見・要望を聴きながら運営している。
	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	町内会に入会している。町内会員も高齢者が多い中、事業所では、認知症やグループホームの有り方を理解してもらえよう勉強会を開催するとともに、子供達との交流を交えながら、地域交流を図るよう努めている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念に基づいた、事業所独自の運営方針を決めている。今年度は、「技量をみがこう・笑顔をもらおう・安全を守ろう」を目標とし、実践している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を日誌の表紙に貼り付け、ミーティングの中では必ず確認をするなど、職員間で理念を共有し、日々取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、運営推進会議等にも町内会役員などが参加している。立地条件により地域活動は少ないが、近郊の小学生やボランティアが遊びに訪れるなど、更に交流を深めるよう努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長をはじめ全職員は、自己・外部評価の意義を深く理解しており、評価を活かした具体的な改善に前向きに取り組んでいる。また、日々のケアを振り返るよい機会と捉えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開き、出席者に書面を配布し、活動状況を報告するとともに、意見や要望を具体的に受け入れ、サービスの質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所として、市町村担当者と必要に応じて連携を取っている。	○	今後は、市町村担当者のもとに出向く際に、事業所便り等を持参するなど工夫して、更に連携を深めるよう努め、サービスの向上に繋げることを期待する。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月広報誌を発行し、利用者個々の健康状態などを細かく報告するとともに、金銭管理についても出納帳にて管理し、領収書を月に1回家族に送付して確認を受けている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ホールに意見箱を設置するとともに、生活相談員が苦情相談窓口になり、相談があった場合は直ちに調査し対応している。また、その結果を家族に報告するとともに、運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職は必要最小限に抑え、利用者や職員の馴染みの関係が築けるよう常に努力している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、積極的に法人内外の研修会への参加を、職員に促している。研修参加後は、報告書を作成し全員で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、グループホーム協議会の役員をしており、同業者と密に交流を深め、サービスの質の向上に積極的に取り組んでいる。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者はもとより家族も、安心して利用を開始できるように、事業所の雰囲気になじめるような最善の注意をはらうなど、家族等からも納得が得られるよう工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の生活歴をふまえ、日常的に家事や行事を一緒にする中で、利用者から色々なことを教わりながら、共に支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや意向・要望について、職員は十分に本人・家族から話を聴き、職員間で検討して、日々のケアに努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の意向をふまえながら、利用者1人に対して職員3人の担当グループで検討し、作成担当者が介護計画を作り、介護支援専門員が必要な指導・助言を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用開始時より3ヶ月・6ヶ月毎に見直しを行うとともに、利用者・家族の意向や状況に応じて、その都度計画担当者・専門員によって見直しを行っている。		
<b>g</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医への定期的受診の支援はもちろんのこと、その時々々の利用者・家族の要望・状況に応じて、隣接する施設と連携して柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度の定期受診をはじめ、本人及び家族の要望を優先した医療体制を築いている。隣接する施設と連携を図るとともに、看護師と相談するなど、協力を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に利用者・家族等と話し合うとともに、利用者の状態変化に応じて、直接家族と話し合いを持ち、その内容を全職員が把握している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者一人ひとりを尊重し、本人に合った対応をしている。また、個人情報に係る記録等は厳重に保管しており、全職員は慎重に取り扱っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用開始前の利用者の生活習慣を尊重し、型にはめないケアを心掛け、本人のペースに合わせた時間の過ごし方を大切にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家事や仕事を好む利用者は、職員と一緒に食事の準備や片付けをしている。食事介助をはじめ、ランチョンマット・箸等に至るまで、職員の優しさが行き届いている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は定めず、毎日入浴できるように用意をしている。利用者一人ひとりの希望に合わせて、入浴を好まない利用者も楽しんで入浴ができるよう工夫している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴のアセスメントを活用し、できる限り、利用者が喜びを感じたり気晴らしができるよう考慮している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	定期的に、外食・おやつ外食等の外出を実施するとともに、事業所が自然豊かな環境の中にある利点を活かし、利用者の希望に沿って、外出を楽しむ時間が持てるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関ドアは自動ドアになっており、ブザーが鳴る工夫をして、すぐに職員が対応できるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、日中・夜間を想定した訓練を実施するとともに、設備等には番号をふり確認するなどの防災教育を実施している。隣接する他事業所とも連携をとるとともに、消防署との連携システムを築いている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導の下、利用者一人ひとりの状態に合わせ、バランスのとれた食事・水分量を確保しており、全職員が利用者個々の摂取状況を把握している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るく、ゆったりと開放的であり、居心地良く過ごせるように季節の飾りつけ等をしている。トイレの案内にはレトロ調の絵を貼るなど、工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はゆったりとしており、家族も宿泊が可能である。使い慣れた物品や仏壇を置き、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		

※  は、重点項目。